

合格

参加候補者調査記録

ふりがな	すみだ きらら
氏名	墨田 季楽々
生年月日	2004年9月9日(19歳)
願い	5000兆円欲しい

記録

「金が欲しい」は、今回の募集で最も多い願いでありながら、反比例して送信者の本気度が低い願いであったように思う。

応募サイトをフェイクと捉えるならば、それも当然のことだろう。

しかし、私は、墨田季楽々に、熱量と本気を見てとった。

応募理由欄には、大量の「〇〇したいから」が書かれていたし、誤字とひらがなだらけの文章にはある種の迫力も感じた。

ということで、以下に墨田季楽々の調査報告を記す。

墨田季楽々は、コンビニで働くフリーター。

おしゃべりな店員の話によると、「お金が大好きな働き者」だそうだ。

食事は店の廃棄弁当で済ませることがほとんどで、着ている服はもらいもの。

古いアパートで一人暮らしをしており、家族や友人の影はない。

店員曰く、

「いっそ社員になってくれればいいのになって思うんだけど、
かけもちしてるバイトもそこそこ忙しいっぼいのよね」とのこと。

そこで、私は墨田のもう一つのバイトについても探ってみた。

…のだが、それは、世間でいうところのいわゆる闇バイトだった。

報酬は高いが、リスクも高い。それも、墨田はそこそこに長く、さまざまな仕事を請け負ってきた実績を持っているようだ。

であれば、墨田は、シラノに捧げる血・器としてはふさわしくないのかもしれない。

調査を打ち切ろうかとも思ったが、特に贅沢や浪費をしている様子もない墨田が、そうまでして強く金を求める理由は気になった。

事実、こうして周囲を探ってみても、墨田という人間はいまいち内面が掴めない。
お調子者の守銭奴……、何も考えていない愚か者。
そんな印象ばかり残るのは、本人があえて内心を周囲に見せていないからだろうか。

墨田は、中学生の時に保護者に蒸発されて以来、たった一人で生きてきたと周囲に豪語している。
手がかりは非常に少なかったが、
私は、墨田が幼少期に暮らしていた地域を掴み、彼女の過去について調べをつけることに成功した。

墨田とその弟は、幼い頃、母親によって祖母の家に置き去りにされた。
祖母は若く奔放なタイプで、姉弟を追い出すことこそしなかったものの、心を尽くして面倒を見ると
いうこともなかったようだ。感覚としては、突然降ってわいてきたペットに近かったのかもしれない。
姉弟は、祖母の恋人や、近所の人間に預けられたり、ときには完全に放置されたりしながら育ってい
く。

小学校に入学すると、墨田は近所で「バイト」を始める。
要は小遣い稼ぎだが、突然押し売りのようにお手伝い役を買って出てくるので、近隣では要注意人物
とみなされていたようだ。

なぜ墨田がそんなことをしていたかと言えば、察するに、自分たちの生活費のためだったのだろう。
姉弟は、いつもみすばらしい服を着て、給食費も払っていなかったという証言もあった。
図々しく、いやしい、「我が子と遊んでほしくない子」。
それが、地域の人々にとっての幼い墨田姉弟であった。
墨田の図々しい、もとい人懐っこい性格は、この頃から始まっているのだろう。
そうでなければ、飢えてしまうから。幼い子供が、頼るべきおとなにうとまれ、生きるために処世術
を学んでいった過程を思うと、どこか悲しいものがある。

墨田が中学生に上がった頃、一家が住んでいたアパートからは祖母の気配が消えた。
墨田はこれについて、周囲に「祖母は恋人と新しい家に住むことになった」と語ったようだが、実際
は母のときと同じで蒸発されたようだ。
この頃から、墨田は本格的にバイトに励みだす。年齢は偽っていたのか、単に見逃されていたのか。
彼女は昼夜働き、学校はサボるか、来ても寝ていることが多くなっていく。

不思議なのは、彼女がどんな苦境においても、他人、おとなを頼ろうとしなかったところだが、
本来、無条件で信頼・愛情をくれるはずの保護者に見放されてきた彼女には、
それはもともと選択肢にない行為だったのかもしれない。

祖母が消えてからの弟は、忙しい姉に反してのびのびと育っていったようだ。かつてのように手伝いを押し売ることもない。記録に残る彼の姿は、普通の小学生だった。それは、そう在れるように墨田が心配ったからなのだろうか。

答えはわからないが、ある日、弟は事故に遭い、意識不明の状態になる。命を落とさなかったのは、墨田にとって幸福だったのか、不幸だったのかわからない。

とにかく、墨田はこの頃から、ますます仕事を選ばなくなった。住む場所も変え、なりふり構わず、高額のパイトを探し続ける日々。現在も付き合いのある（どう考えても非堅気な）仕事斡旋人に出会ったのも、どうやらこの頃のようにだ。

墨田の応募理由には、「弟を救いたい」という言葉はなかった。しかし、これらの過去を踏まえれば、裏に弟の問題があることは間違いないだろう。

墨田は、誰にも頼らず、弟を救いだして生活を手に入れようとしている。だとすれば、その精神は、幼く、実に健気だ。それに、「金が欲しい」というシンプルな願いは、視聴者の共感を集め、率いるにも適しているだろう。どんな苦境にも耐えてきたタフさを考慮しても、私は、墨田季楽々をシラノの器、およびゲーム参加者として推薦していいと考える。

【追記】

弟の存在を知っていることを伝えと、墨田は動揺と不快感をあらわにした。しかし、ひとまずこちらにそれを公表する気がないとわかると、落ち着きを取り戻して人懐っこい態度に戻った。

祖母の失踪後、なぜ福祉に頼らなかったか訊ねてみたところ、墨田は「なにそれ？」と首を傾げた。今回のゲームについては、「いのち大事すぎるし しょーみ全然懸けたくないけど、一攫千金チャンスないともーヤバい気がする」と語った。

その焦燥感は、本能が告げたものか、それとも合理の判断ゆえか。ゲームを通じて、墨田季楽々という人間がどんな変化を見せるか楽しみだ。